

研究の概要

伊万里市立 山代中学校
校長 笹山 清彦
伊万里市立山代東小学校
校長 吉永 浩伸
伊万里市立山代西小学校
校長 出雲 令子

1 研究テーマ

「小中連携による、基礎学力の定着と、自ら学ぶ児童生徒の育成」

(1) 山代中学校

基礎学力の定着から、学びの質を高める指導法の改善

～学びへの志をもち、主体的に活動できる生徒の育成～

(2) 山代東小学校

確かな学力を身につけ、思いや考えを伝え合う子どもの育成

～基礎・基本の確実な定着を目指した算数科学習指導の工夫～

(3) 山代西小学校

すすんで考え、共に学び、生き生きと学習に取り組む児童の育成

～学びあい活動を取り入れた国語科指導の工夫～

2 研究テーマ設定の趣旨

本町は、佐賀県の北西部に位置し、長崎県松浦市と隣接している。波静かで風光明媚な伊万里湾を前に擁し西岸に連なる国見の山々等、天然の美しい景色に恵まれた延々10kmに及ぶ細長い町である。藩政時代は、山代郷をなしその歴史的香りも高く、かつては農村漁村として栄え、特に海路交通の要所として発展し続けた町である。

校区内の学校では、県学習状況調査の結果から次のような課題が見られる。

山代中学校では、全ての教科で県の正答率を下回っており、それぞれの教科の基礎学力を定着させることが喫緊の課題となっている。「自ら進んで学ぶ姿勢」や「自分の考えを他に伝えること」、さらに「獲得した知識をどのように使うのか」という点において特に低い割合であった。生徒が学習する意義を単に高校入試のためと考えているのであれば、学力の向上を望むのは難しい。そこで何のために学習するのか、学習することでどのようなメリットがあるのかを生徒自身が感じるようにしなくてはならない。

山代東小学校では、県学習状況調査の結果から、国語と算数は全般的に到達基準を下回っている。特に算数での思考力の弱さが顕著で、問題を筋道建てて考える力が不足している。既習内容を時間が経つと忘れてしまう傾向があり、基礎学力が定着しているとは言い難い状況にある。また、自分で考えたことを伝え合う活動においては、意欲はあるもののわかりやすく説明するのが十分に育っていない。

山代西小学校では、「自ら進んで、学習したり主体的に取り組んだりする意欲」「学習時の発表や話し合い等での自己表現」に課題が見られる。

そこで、西部型授業の流れに沿った授業を行い、基礎的・基本的な知識や技能を定着させ、思考力・判断力・活用力を育成する場面を設定し、子どもが自ら考える学習を充実させる。また、家庭学

習の充実を図り、保護者やPTAとも協力しながら、主体的に学び続ける児童生徒の育成を目指す。

3 研究組織

3校による合同の研究組織を編成し、各学校の研究推進委員会を下部組織とする。

○学力向上に係る小中連携推進委員会

各学校 校長、教頭、教務主任、研究主任、学力向上コーディネーターなど

- ①授業実践部会（各学校教員）・・・授業の流れ、話し合う活動、書く活動、立腰教育
二分前着席、話を聞く姿勢、発表の仕方など
- ②家庭学習部会（各学校教員）・・・課題の出し方、内容の工夫、学習時間
PTA、家庭との連携

4 研究内容

(1) 小中の共通の取り組み

- ① 西部型授業の流れに沿った授業の実践（授業作りのステップ 1.2.3 を活用しながら）
- ② 立腰教育
- ③ 家庭学習の工夫・充実を図る。

(2) 各校別の取り組み

- ① 山代中学校では、基礎学力定着のために、SA（帰りの会の時間に行う学習時間）と自主学習ノートの見直しと改善を行う。また、PDCシート（テスト前計画実施票）、GCカードの改善を行い、家庭やPTAとの連携を図る。さらに、学習状況調査の分析を行い、それぞれの授業の改善を行う。
- ② 山代東小学校では、西部型授業に取り組む。1人学びや2人学びを行い主体的に授業に取り組むような授業を展開し、めあてやまとめを位置づけた授業を行う。また、書く活動を取り入れた振り返りを行うことで自己の学習の足跡を確かめられるよう工夫する。また、学習用語を可視化することで自力解決の手助けになるような学習環境を整える。また、家庭学習を効果的に使って反復練習を継続的に行う。
- ③ 山代西小学校では、国語科において学び合い活動を学習過程に位置づけ、児童の学習意欲を高め、確かな学力を育む。また、基礎・基本の定着を目指したスキルタイムや、聞く力や話す力の向上を目指したスピーチタイム、読書活動の充実などの国語的環境の充実に取り組む。

5 期待される成果

- (1) 全職員で共通の指導の視点をもって授業改善に取り組むことで、教師の個々の指導力向上につながるるとともに組織力が高まる。
- (2) 小学校及び中学校において、西部型授業を展開することによって、授業の流れについて統一が図られるため、学習に対する「中1ギャップ」の解決が図られることが期待できる。
- (3) 全ての授業で言語活動を充実させることによって、思考力・判断力・表現力が向上し、活用力向上にもつながっていく。
- (4) 課題の出し方・内容等を工夫し、家庭学習を充実させることにより基礎学力の定着や家庭、PTAとの協力体制がさらに強化される。